

ムーアカデミー通信



Aichi Kaisho Forest Center News Letter Since 2007



収穫の季節



黄金色のじゅうたんはきれい
さっぱり刈り取られ、おいしい
もち米になりました。

(里の教室)



サトイモ

豊作♪
ほうさく♪



特集 海上の森はいま

「第3回人と自然の共生国際フォーラム」が開催されました COP10関係事業・谷津田の再生

この人!

「地域の中で小さな一歩から」 森のたんけんたい 小林 直美さん

新着図書を紹介します

「森の奥の動物たち－ロボットカメラがとらえた森の精霊たちの姿－」



元々はゾウに踏まれても壊れないロボットカメラを作る為だった一著者が自作した自動撮影装置のテスト撮影を日本の森で行ったところ、映し出されたのは森の奥で生きる動物たちの姿でした。生き生きと魅力的な彼らを追い続けるうちに明らかとなった日本の哺乳類の生態は、とても不思議で興味深いものだったのです。海上の森に棲む、普段は姿を見せないキツネやタヌキたちも、実はこんなふうになぎやかに暮らしているのでしょうか。どの写真もとても美しく、まるで自然が生み出した芸術作品のようです。

鈴木直樹著 発行：角川学芸出版

特集 海上の森はいま

「第3回人と自然の共生国際フォーラム」が開催されました

2009年10月24日に、愛知県産業労働センター（ウインクあいち）で「第3回人と自然の共生国際フォーラム」が、県内外から総勢約500名の参加により開催されました。

本フォーラムは、愛知万博の継承事業として2007年から開催されてきました。第3回目となる今回は、2010年に開催される「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）の1年前記念行事と位置づけ、「生物多様性から人と自然の共生を考える ～森林・里山にみるいのちのつながり」をテーマに開催されました。基調講演では、昨年ドイツで開催されたCOP9において、ドイツのNGOの代表を務めたクリスティーヌ・フォン・ヴァイツゼッカー氏を講師に迎え、「生物多様性とあいち・なごやで開催されるCOP10の重要性」と題して、COP10で何が議論されるのか、またホストとしての日本や愛知県の役割などについて貴重な

お話をしていただきました。また、ポスターセッション、パネルディスカッションでは、参加者を交えた活発な議論が展開された他、2日目の25日には、フィールドワークとして「生物多様性、森林・里山体感ツアー」が行われました。

このフォーラムでの議論を受け、参加者一同の拍手により採択された「フォーラム宣言」では、2010年のCOP10に向け、自らも具体的な行動を起こしていくことが約束されました。今後の参加者のみなさんの活動が活性化することを期待しています。※ 詳細につきましては、センターのホームページに掲載しますので、ぜひそちらもご覧ください。

クリスティーヌ・フォン・ヴァイツゼッカー氏の基調講演



COP10関係事業・谷津田の再生

センターでは、谷津田（谷あいの田んぼ）の再生作業を通して里山の生物多様性を考える、「里の再生教室」を実施しています。全6回で、定員は各回50名、小学生以上を対象としています。作業場所は、「ふれあいの里」にある、耕作が放棄されて草地となった土地の一部、約200㎡（2畝程度）で、最初（第1回、8/16実施）に再生前の草地にどんな生き物がいるかを調べ、第2～5回（第4回まで実施済、第5回は11/29実施予定）に、海上での昔ながらの工法で田んぼの再生作業を行い、第6回（来年3/20予定）に再生した田んぼをどんな生き物が利用しているか調べます。

第1回の調査で、草地に生息する様々な生き物を観察できましたが、水辺を好む生き物は湿った場所や水路など、限られた場所で暮



らしていることも分かりました。こうした環境の中に田んぼを再生することで、生き物たちの多様なすみかとなることを期待しています。第2回から第4回には、土手づくりや田起こしといった作業を行いました（写真）。

里山の多様な環境は、人の手が常に入り、維持されていくことが大切です。海上の森では、谷津田の再生をモデル的に実施するとともに、多様な生き物が暮らせる環境づくりを目指して取り組みを進めています。そして、体験学習の場として、また県民、団体など多様な主体と協働して活用することにより、ふれあいの里を保全していきます。

なお、里の再生教室はあと2回実施します。皆さんもぜひご参加ください。

日時：第5回 11月29日、第6回 3月20日

いずれも 午前10時～午後3時

申し込み方法はホームページをご覧ください。

<http://www.pref.aichi.jp/0000014018.html>



この人!

『地域の中で小さな一歩から』

森のたんけんたい 小林 直美さん

自然の中で自主保育活動（公園や自然の中など野外を拠点に親たちがグループをつくり、就学前の子どもを交代で預かりあいながら地域の中に子どもの育ちの場をつくる活動）を17年続けている。海上の森大学では「市民参加コース」と「里山文化コース」で2年お世話になった。毎日自然の中で子どもやお母さんたちとすごし、自然について学ぼうち、「人間は自然の一部であり、仲間と助け合いながら生きていく存在だ」と実感するようになった。子育て、食をはじめ、暮らしにかかわることが現在は細分化されすぎているように思う。昔なら隣近所で協力し合いながら自分達で行っていたことを今ではすべて、専門家にまかせるようになり、仲間とのつながりは断たれ、命のつながりもみえにくくなっている。今、大事なことは、そんなつながりをもう一度地域の中にとりもどすことではないだろうか。例えば、自然の中で子どもを育てたいと思ったら、仲間を募って、

いっしょにおさんぽをはじめしてみる。荒れている森があったら森林ボランティアのグループに入って手入れをしてみる。畑を始めたり、田んぼの活動に参加したりしてみる。仲間を見つけて一歩をふみだしてみてもはどうだろう。この秋、岡崎にて「森のようちえん全国交流フォーラム in 愛知」を開催する。自然の中で保育や子育ての活動を行っている人や興味のある人たち（親・学生・保育士なども）が全国から集まり、自然と保育（子育て）について情報交換をし、学びあうフォーラムで、5回目の開催となる。今年のテーマは「小さな一歩から未来へつながれ！森のようちえん」。みんなの小さな一歩を後押しする力になればと願っている。

プロフィール 5年間幼稚園勤務の後、自主保育活動と関わり17年。野外自主保育「森のたんけんたい」代表。「森のようちえん全国交流フォーラム in 愛知」実行委員長。



センター職員の随想リレー

かたりべのひと言

—素晴らしい海上の森—

この4月に、あいち海上の森センターに勤めだしました。「海上の森」の素晴らしさを改めて感じています。シデコブシなどにも見とれてしまいましたが、歩道脇のスミレやミズヒキなどの小さな花にも目がいくようになりました。ムササビ君が巣箱から眠気まなこを見せてのぞいている姿にも出会いました。また、オオスズメバチが小型のスズメバチの巣を襲って幼虫等を奪っている様子も観察しました。

森の中や里では、様々な動植物が互いに関連しあって生きています。それは、共生であったり死活の関係であったりします。小さな子供たちにも、ぜひ見てもらいたいなとつくづく思います。

来年度、生物多様性条約締約国会議（COP10）が本県で開催されます。これを契機に、自然に対して皆様の関心が益々高まることを期待しています。海上の森へぜひお越しください。（T・N）

森のなかま

タカノツメ（ウコギ科タカノツメ属）

里山の秋は、植物たちの様々な色で鮮やかに彩られます。海上の森は、全体的に落ち着いた黄葉となりますが、森を黄色く染めるのに一役買っている木々の1つがタカノツメです。タカノツメは海上の森に多く分布している落葉の小高木です。

1箇所に3枚の小葉がついているのが特徴（3出複葉）で、名前の由来は、冬芽の形が鋭く尖っており「鷹の爪」に似ていることから付けられたといわれています。11月ごろからだんだんと美しく黄葉し、秋が深まり落葉すると、お香のような良い匂いが林内にたち上ります。また、タカノツメの新芽は山菜として食卓に並ぶことも。人によっては香りが少しきついですが、天ぷらや汁物にするとおいしいそうです。



展示の目玉

「海上の森で生物多様性を学ぼう」

「生物多様性」って何だろう？ 愛知・名古屋で行われる生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が近づくにつれ、生物多様性という言葉をよく耳にするようになってきたことと思います。しかし、いざその言葉を説明しようとするとなかなか難しいもの…。この展示では、生物多様性の基本的な説明を始めとし、特に、「海上の森」という生態系における生物多様性について知ることができます。これをご覧になったあと海上の森を歩くときは、ほんの少し生物多様性のことを考えながら歩いてみてください。また違った発見をすることができるかもしれません。



その他のお知らせ

カシノナガキクイムシ被害について

海上の森では、夏の終わりごろから、全身茶色いコナラやアベマキがとても目立つようになりました。一見紅葉のようにも見えるこの現象は、現在日本の広い範囲で問題となっているナラ枯れの被害です。ナラ枯れは、カシノナガキクイムシという養菌性のキクイムシの一種が媒介する菌が原因で起こり、ドングリの実をつけるナラ・カシ類の、特に老齢の大木が被害を受けています。この被害状況は、一昔前に日本のマツが壊滅的な打撃を受けたマツ枯れと同様、拡大していくことが危惧されます。これに対し、各森林地では様々な対策がとられていますが、費用が安く簡単にできる効果的な防除は、なかなか難しいのが現状です。当センターでは昨年度、被害木の調査や局所的な被害拡大防止に取り組んできましたが、今年はさらに広域で目立った被害が見られるようになってしまいました。本年度も引き続き、枯れて危険になった木の伐倒や調査・防除を実施していく予定です。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



イベント・参加者募集 もりもり 生まれ!

イベント名	開催日	定員	募集期間	対象
♪里山のものづくり（炭焼き-2日1セット）	1/23,24（土日）	30名	11/23-1/9	小学生以上、小学生は保護者同伴
★海上の森ツアー	3/13（土）	50名	1/13-2/27	小学生以上、小学生は保護者同伴
★森林ボランティア研修	3/14（日）	20名	1/14-2/28	小学生以上、小学生は保護者同伴
★里の再生教室（里の生きもの調査）	3/20（土）	50名	1/20-3/6	小学生以上、小学生は保護者同伴

《応募方法》
 官製はがき、FAXまたはE-mailに ①イベント名②住所③氏名④年齢⑤電話番号 を記入し、申込期限（当日消印有効）までに、下記の申込先へお申し込みください。申込多数の場合は、抽選により決定し結果を通知します。

《申込先》
 ★印のイベント…あいち海上の森センター（〒489-0857 瀬戸市吉野町 304-1、TEL:0561-86-0606、FAX:0561-85-1841）
 ♪印のイベント…海上の森の会（〒489-0857 瀬戸市吉野町 304-1「あいち海上の森センター」内「海上の森の会」事務局
 TEL/FAX:0561-21-9298、E-mail:morinokai2004@kxa.biglobe.ne.jp）

編集後記：色づく木々、落ち葉にどんぐり、澄んだ空気…海上の森はゆっくりと確実に秋の色に染まってきました。晴れた日の林内は本当に気持ちが良いです。しかし、木枯らしが吹くと一転、冬の気配はすぐそばに。きっと森の中では、動物たちが冬ごもりの準備で大忙しなのでしょう。

編集・発行 あいち海上の森センター（ムーアカデミー）
 発行日 平成21年11月10日
 〒489-0857 瀬戸市吉野町 304-1
 TEL 0561-86-0606 FAX 0561-85-1841
 E-mail kaisho@pref.aichi.lg.jp
 URL http://www.pref.aichi.jp/kaisho/

